

ツキヨタケの概要について

1. ハザードの主な特徴

ツキヨタケ（別名／ツキヨ、クマベラ、ワタリ、ドクモタシ、ドクキノコ（岩手県）、ツキヨダケ、ツキヨダケ、ドクアカリ、キカリキノコ、ヒカリダケ（秋田県）、ヒカリゴケ（新潟県）、クマベラ、コウズル（富山県）、ブナタロウ（福井県））（キシメジ科ツキヨタケ属）は、初夏～秋に、ブナなどの広葉樹の倒木や枯れ木などに多数重なり合っ
て発生する。中型～大型で、傘は半円形～じん臓形（長径 10～25cm）、表面ははじめ黄
橙褐色でやや濃色の小鱗片があるが、成熟すると紫褐色～暗褐色となり、多少ろう状の
光沢を帯びる。ひだは垂生（柄に対し、ひだが下向きの弧を描いて付着）し、淡黄色の
ち白色で幅広く、暗所で青白く発光する。柄は長さ 2cm 程度で太短く、傘のほとんど側
方、まれに中央に付き、隆起した不完全なつばがある。縦に裂くと、柄の付け根部分に
ふつう黒紫色、まれに淡褐色のしみがある。肉は白色でやわらかく、柄に近い部分は厚
い。食用のヒラタケ、ムキタケ、シイタケに、外見、色彩、サイズ等が酷似しているた
め、誤食による中毒がクサウラベニタケに並んで多く発生する。幼菌ではナメコとも混
同しやすい。また、ムキタケとツキヨタケは同じ枯幹から発生していることもあるので
注意が必要。主な毒性成分はイルジンS、イルジンM、ネオイルジン等のイルジン類で
ある。

2. 人に対する健康影響に係る知見

【国内の中毒事例】

平成 21 年（2009 年）、福井県において採取したツキヨタケを家族 4 名で食し、全員が
嘔吐などの食中毒症状を示したなど、毎年 20 件前後の事例が報告されている。ツキヨタ
ケはクサウラベニタケと並んで、誤食による食中毒の発生件数が最も多いきのこの 1 つ
である。

【中毒症状】

摂食後数時間（30 分から 3 時間）で発症し、一般に、嘔吐、腹痛、下痢などの典型的
な胃腸系の中毒を起こす。ほとんどは翌日から 10 日程度で回復する。ひどい場合は、痙
攣、脱水などを起こし、死亡することもある。

【毒性】

イルジン類には消化管出血性炎症を惹起する作用があり、ツキヨダケの主な有毒成分
イルジンSは、加熱や塩蔵によって分解しない。特に小児や老人では、少量の誤食でも
危険性がある。

【有毒成分イルジンSのマウスにおけるLD₅₀（半数致死量）¹⁾】

マウス腹腔内投与：50 mg/kg

マウス静脈内投与：30 mg/kg

【治療法】

激しい下痢症状のため下剤の投与は一般に行なわない。特に嘔吐、水溶性下痢が極度
の場合、体液喪失による脱水、電解質異常に対する補液に十分気をつける。具体的には、
以下の 4 処置が有効とされる。

¹⁾ LD₅₀（半数致死量）：化学物質の急性毒性の指標で、実験動物集団に経口投与などにより投与した場合に、統
計学的に、ある日数のうちに半数（50%）を死亡させると推定される量のこと。LD₅₀
の値が小さいほど致死毒性が強いことを示す。

- (1) 催吐・胃洗浄
- (2) 吸着剤投与
- (3) 対症療法：補液
- (4) 重症例には血液灌流（DHP:direct hemoperfusion）

3. 食用きのこの判別法に係る知見

硫酸バニリン反応による呈色反応試験では、食用のムキタケは赤紫になるが、有毒のツキヨタケは変色しない。

4. 国内のリスク管理機関等の取組状況

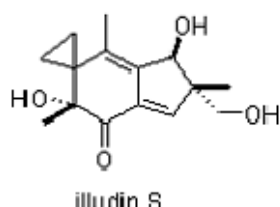
厚生労働省においては、各都道府県等に対し、食用と確実に判断できないきのこ類の採取、販売、摂取について消費者及び食品等関係事業者に対する注意喚起又は監視指導の実施を要請するとともに、厚生労働省ホームページ（「自然毒のリスクプロファイル」<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/>）において、有毒植物に関する特徴や有毒成分等の情報について掲載し、注意喚起を行っている。また、各都道府県や各保健所においても、摂食が可能なきのこ等についての普及啓発や情報提供を行っている。

農林水産省においては、野生きのこを採取・摂取する際に、誤って毒キノコを摂取・採取しないよう、食べられるかどうかを安易に自己判断せずに、きのこアドバイザーや地域の専門機関など専門家の判断を仰ぐように林野庁のホームページ（「毒きのこに注意」<http://www.rinya.maff.go.jp/j/tokuyou/kinoko/pdf/doku.pdf>）において情報提供を行っている。

5. 参考情報

イルジン S 分子式：C₁₅H₂₀O₄

構造式：



物質名（IUPAC）：1β,5α-ジヒドロキシ-2α-(ヒドロキシメチル)-2,5,7-トリメチル-1,2-ジヒドロスピロ[6H-インデン-6,1'-シクロプロパン]-4(5H)-オン
[(1R,2S,5R)-1,5-dihydroxy-2-(hydroxymethyl)-2,5,7-trimethylspiro[1H-indene-6,1'-cyclopropane]-4-one]

CAS 番号：1149-99-1

本情報は、平成 22 年度食品安全確保総合調査「輸入食品等の摂取等による健康影響に係る緊急時に対応するために実施する各種ハザード(微生物・ウイルスを除く。)に関する文献調査」で作成されたハザード概要シート(案)をもとに食品安全委員会事務局が作成した。